

0000 OGU MAG + (プラス)

【キーワード】

〔施設種別〕 □高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 ■住宅（シェアハウス）、ギャラリー カフェ等
〔運営主体〕 □市区町村 □法人 □NPO ■個人 〔補助金〕 □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省（）
〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 □新築 □増築 ■改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 □高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー ■多世代



図1. 外観

ものづくりの街荒川区尾久に位置する木造店舗付共同住宅を改修し、アートを中心とした複合施設に転用したプロジェクト。ギャラリー、ワークショップスペース、カフェ、アーティスト向けシェアハウスから構成される。

町に大きく開くことで、アートを中心とした地域住民の交流を、シェアハウスも含めた施設全体で行えるようにしている。

■施設情報

所在地：東京都荒川区東尾久 4-24-7

施設種別：ギャラリー、シェアハウス、カフェ等

運営主体：個人

設計管理：Atelier Asami Kazuhiro,
nmstudio 一級建築士事務所
Studio GROSS

敷地面積：-

延床面積：148.23m²

建物構成：地上2階

構造規模：木造

利用者数：入居者3名

運営開始：令和3年

スタッフ：オーナー1名、その他非常勤数名

写真撮影：奥村浩司（改修前除く）



図1. 立地周辺

敷地は交差点に面している。西側道路は北側の商店街（おぐ銀座）と接続し、北側道路は明治通りを渡って田端駅へと接続する。近隣住民が日々の動線として利用する、通行頻度の高い立地である。



1F 内観



2F 内観



改修前の外観

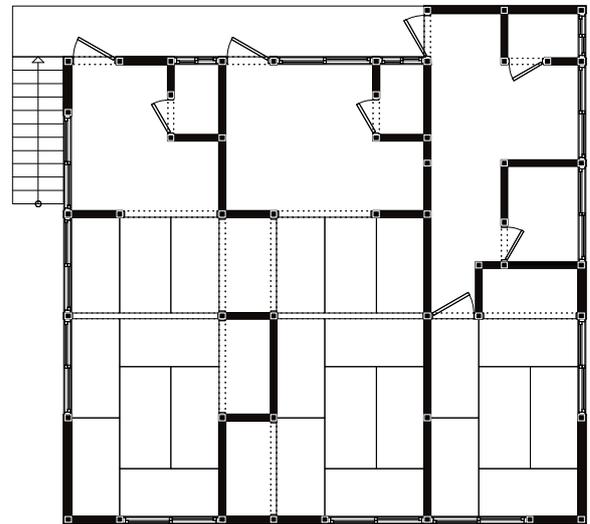
■既存建築について

この建物は1971年、1Fに2つの店舗、2Fに3戸の共同住宅の店舗付き住宅を備える第一齊藤荘として誕生した。年月を経て、1F南側店舗はギャラリー（OGU MAG）として使われており、北側は5年前より空き店舗となっていた。

2Fは3つの賃貸住宅が並んでおり、その平面計画と隣棟距離の近さにより、暗く窮屈感のある空間であった。



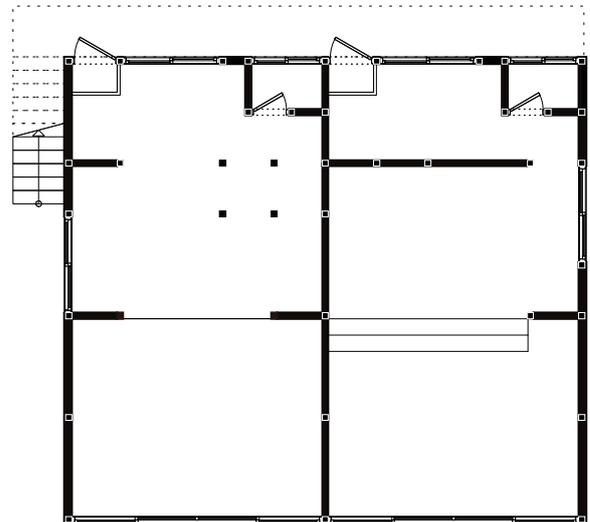
改修前内観（2F）



既存2階平面図 1:150



改修前内観（2F）



既存1階平面図 1:150

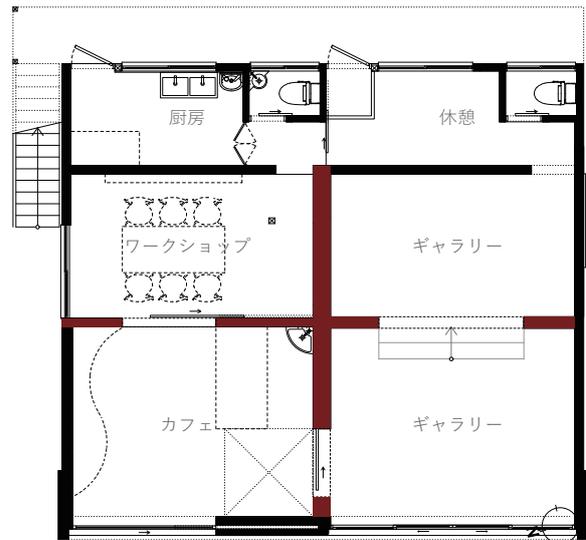
2つの十字

■ 1F 十字の壁

ギャラリー・カフェ、ワークショップスペースといった機能を持つ1Fは、開口部を設けた十字型の壁によって空間を分節している。既存の間取りに極力逆らわず、最小限の壁を足す、抜くといった操作によって空間のつながりかたを整え、多様なイベントにできるように空間の重ね使いができるようにしている。十字の壁は、耐震補強としても機能する。交差点に面するファサードは最大限街に開き、交差点とギャラリーの間にカフェを置くことで、地域住民や通りがかった人がカフェを通して気軽にアートに触れられる空間としている。

ギャラリーには900幅の壁を挿入することでプロセニウム型の舞台状空間とし、最小限の操作で舞台としても利用できる空間とした。

ギャラリーに合わせ、仕上げは白で統一し、既存天井は剥がし躯体を現しとし天井高を確保している。カフェやカウンター等の什器は、合板の組み合わせで簡易に作れる意匠とし、住民参加型のワークショップで製作した。



改修後1階平面図 1:150



街に大きく開いた框引戸



1F内観 十字の壁が部屋をつなぎつつ分節する



ギャラリー。最小限の操作で空間を整えた。

■ 2F 十字のヴォイド

アーティストが入居するシェアハウス。十字のヴォイドによって住民を繋ぎつつ分節する。

隅に個室を設け、良好な採光を確保すると同時に、個室間の距離をとり、個室にいる隣人の音や気配が気にならないようにしている。共用部の袖は住民が作業を行うワークスペースやライブラリーとした。内陣に当たる部分には1Fとつながる吹き抜けとサンルームを設け、住民の生活を街に開くように試みた。十字の中心にはキッチン进行を設け、住民の日常的なコミュニケーションを促すようにした。

外壁側の仕上げはベニヤ貼、天井には木質系断熱材を現しとし、柿渋で塗装することで外皮周りの色味をまとめている。個室は白いボリュームとして仕上げ、木質の空間の中にボリュームが浮き立つようにし、十字のヴォイドを強調した。個室の壁は既存の梁までに留め、圧迫感を軽減するとともに、天井をなめた光が共用部に届くようにしている。

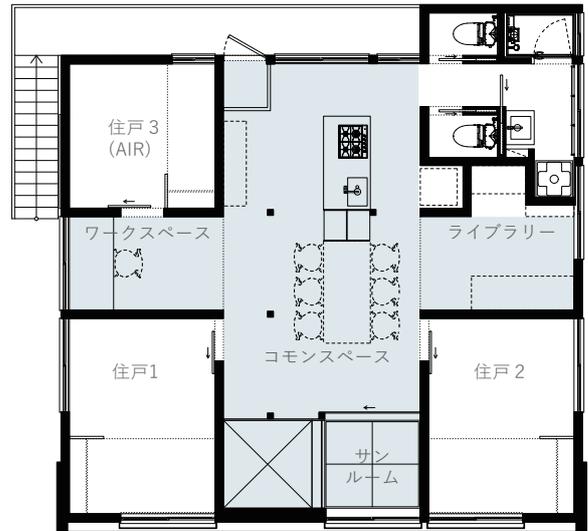
■ 2つの十字

2つの十字は、1Fの2つの店舗、2Fの3つの住戸といった、既存の間取りに最小限の操作を加えることで生まれた、対照的な空間である。

1Fの壁は空間を分節しつつ繋ぎ、2Fのヴォイドは住民を繋ぎつつ分節する。既存を読み解き新たな形を与えることで、利用者が街に根差しながら、より豊かで多様な過ごし方ができる、街の新たな居場所となることを目指した。



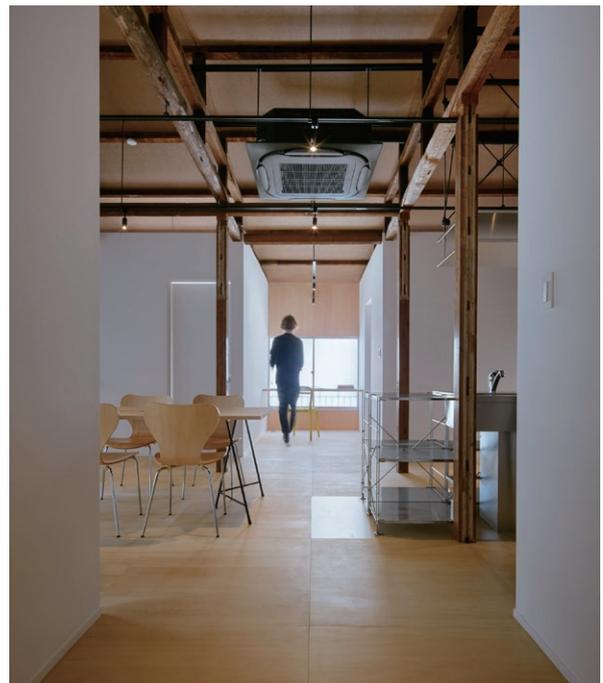
2Fシェアハウス共用部。北側から臨む。



改修後2階平面図 1:150



2Fシェアハウス共用部。西側から臨む。

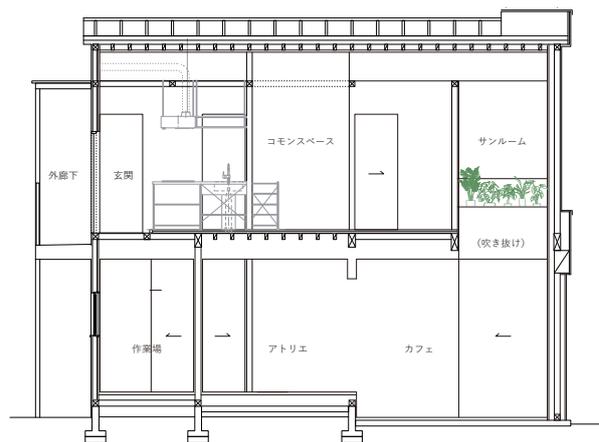


2F内観 十字のヴォイド

生活を街に開く

1Fのカフェと2Fシェアハウスの間には新たに吹き抜けを設けている。カフェ・ギャラリーを訪れた人は、サンルームを通してシェアハウスの生活を垣間見る。街との適度な距離をとりながら、住民の生活を街に開く試みである。住民は来訪者とながり、地域に開かれた様々な創造活動を行う。

吹き抜けに隣接して、道路側には耐震補強を兼ねた壁を設置し、2層にわたる壁面を作っている。これにより、高さを活かしたアート作品の立体的な展示も可能となった。

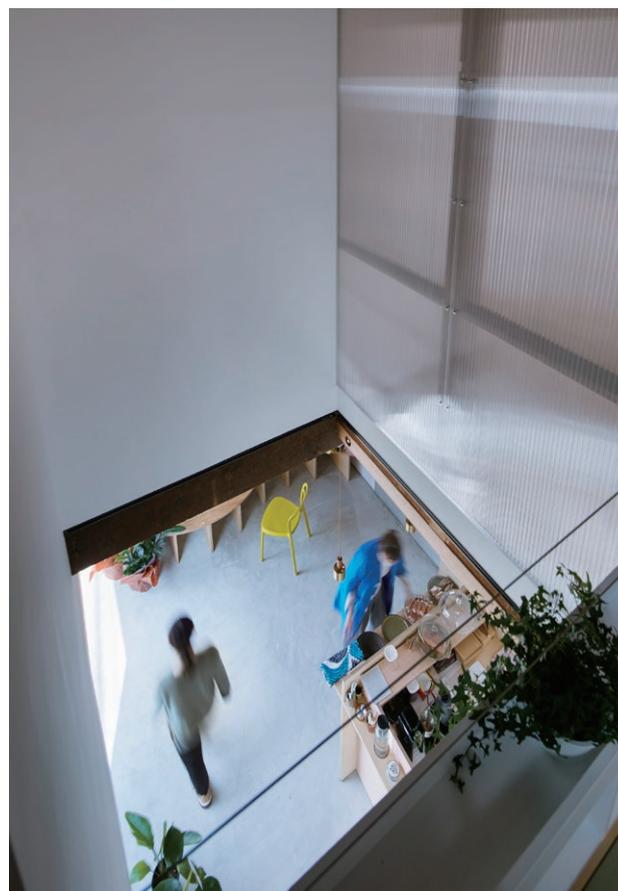


改修後断面図 1:150



吹き抜け部内観（1Fから）

2F共用部を1Fに接続させ住民の生活を町に開くことで、生活するアーティストが町の人と積極的に交流できる場としている。



吹き抜け部内観（2Fから）

2Fシェアハウス共用部の一部である、サンルームからはカフェの様子をうかがうことができる。

白、木、光の素材

1Fの仕上げはギャラリーにあわせ白い壁面で統一し、一部のみ既存の天井下地を現しとした。天井を可能な限り高くとりつつ、訪問者の意識を天井に向けさせ、吹き抜けを通して2Fの住居へとつなぐ計画である。

2Fは外皮周りを木質系の仕上げで統一し、十字を構成する間仕切り壁は白塗装で仕上げた。s いろいろ壁面は窓からの自然光を反射させ、内部に光を取り入れる。建具にはポリカーボネートを採用し、空間を仕切りつつ、可能な限り光を取り入れられるようにしている。

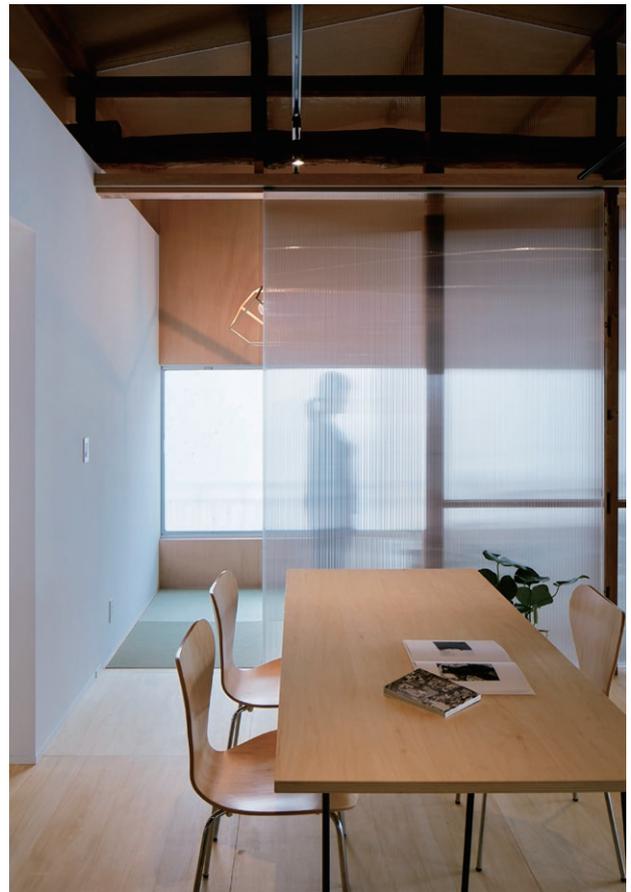


1F ワークショップスペース



2F 間仕切り壁

共用部と個室間の間仕切り壁は白塗装で仕上げている。木質の空間中に白い壁面が浮かび上がる。



2F ポリカーボネート製建具

吹き抜け部はポリカーボネート製の建具で仕切り、閉じたときでも光を取り入れられるようにした。